

# 犯罪報道の共起ネットワーク分析(1)<sup>1</sup>

## Co-occurrence Network analysis of criminal reports(1)

四方 由美・大谷 奈緒子\*・北出真紀恵\*\*・  
小川 祐喜子\*\*\*・福田 朋実\*\*\*\*

本稿は、女性が被疑者・被害者とされる事件の報道を分析し、ジェンダーの視点から犯罪報道を考察したものである。新聞報道を対象に KH コーダーを用いて頻出語句を抽出した上で、共起ネットワーク分析を行い、事件報道において何がどのように関連付けて伝えられているのか、数量的かつ体系的にとらえることを試みた。その結果、犯罪事件の新聞報道における女性被疑者、および女性被害者の伝えられ方について、いくつかの特徴をみることができた。

キーワード：犯罪報道、ジェンダーパースペクティブ、共起ネットワーク分析

### 目次

- I 問題の所在
  - 1 研究に至る経緯
  - 2 研究の視座と含意
- II 分析の概要
  - 1 分析の目的
  - 2 分析の方法
  - 3 分析の対象
- III 犯罪報道の共起ネットワーク分析
  - 1 女性被疑者に関する分析
  - 2 女性被害者に関する分析
  - 3 分析のまとめ
- IV 課題および展望

## I 問題の所在

### 1 研究に至る経緯

犯罪報道の在り方をめぐっては、これまで被疑者・被害者の名誉棄損、プライバシー侵害、被疑者を犯人視する報道などを中心に議論されてきたが、牧野智和（2012）は、これまでの犯罪報道研究の整理を行い、犯罪報道の実証研究および効果研究については客観的知見が十分といえるほど積み重ねられていないと指摘している。

犯罪報道の議論の契機を整理すると次のようになる。1970年代後半に日本弁護士連合会（1976）が犯罪報道の問題点を指摘した。1980年代末にはすべてのマス・メディアが被疑者を呼び捨てから容疑者呼称に転換、2000年6月、日本新聞協会は新聞倫理綱領を全面改定し「人権の尊重」の項目を設けるなどの措置を行ってきた（日本新聞協会編集委員会 2006）。

一方、個人情報保護法（2003年）をはじめ報道・情報に関する法制度が強化されたことにより、報道に変化がみられるようになったとされる（平川宗信 2010）<sup>2</sup>。日本新聞協会は、裁判員の参加する刑事裁判に関する法律（2004年）の公布を受け、2008年に「裁判員制度開始にあたっての取材・報道指針」を公表した。近年、犯罪被害者等基本法（2005年）に基づいて閣議決定された犯罪被害者等基本計画は、警察発表で被害者を匿名にすることを盛り込んだ。さらには、少年法改正（1999年）や裁判員制度施行（2009年）などもある。

これらの変化は、報道の在り方にどのような影響を与えているだろうか。また、犯罪報道の議論にどのようなインパクトをもたらすだろうか。これらの問いに客観的知見から答えるべく、筆者らを含むメンバーで構成する犯罪報道研究会は、犯罪報道の実証研究に取り組んできた<sup>3</sup>。他方、筆者は犯罪報道についてジェンダーの視点、とりわけ性別による扱いの違い（ジェンダー・バイアス）や、それに起因する問題を指摘してきた（四方由美 2014）。

しかしながら、この指摘は、内容分析の結果をもとに論理的に考察したものであり、より実証的な裏付けを必要とする。そこで、本稿では、犯罪報道の共起ネットワーク分析を行い、報道内容の数量的・体系的把握を試みるに至った。

### 2 研究の視座と含意

ここで、ジェンダーとメディア研究の観点から、研究の視座を述べておきたい。報道においては、女性や弱者に関わりの深い社会問題は男性のそれに比べて取り上げられることが圧倒的に少ないことが指摘されてきた（齊藤慎一 2012）。その原因の一つに、ニュースの送り手に女性が少なく、性別のダイバーシティの確保ができていないメディア産業のジェンダー構造の問題があげられてきた。

しかし、犯罪報道において女性が取り上げられることは、決して少なくはない。むしろ、事件の種類によっては繰り返し何度も報道されることが多い。「犯罪と女性」の組み合わせは、センサー

ショナリズムやスキャンダリズムにさらされやすいといえる。矢島正見(1991)は、犯罪報道における被害者の分析を行い、女性被害者は男性被害者と比べ報道される率が高いと指摘する。年齢層別にみると、14歳以下の子どもが報道される率が高いという。小玉美意子ら(1999)は、東京電力女性社員殺人事件(1997年)と学習院大男子学生殺人事件(1997年)の週刊誌報道を比較分析し、女性が被害者の場合は、男性が被害者の場合と比べて、プライバシーの侵害が著しいとする。

こうした問題意識から筆者は、女性被害者、および女性被疑者についての研究を行い、犯罪報道において女性被害者、女性被疑者は、従来から議論されてきた人権やプライバシーといった諸問題に加えて、ジェンダー(文化的性別)を背景とした問題がみられると指摘した。性犯罪事件の被害者の落ち度を責めたり、容姿について言及されることや、殺人事件(子殺しを含む)の女性被疑者が、妻役割や母親役割といった性役割との関わりにおいて責任を追及されるなど、女性被害者や女性被疑者の報道には性規範(ジェンダー規範)に基づくラベリングがみられるからである。例えば、巣鴨子ども置き去り事件(1988年)、秋田連続児童殺害事件(2006年)、大阪2幼児放置死事件(2010年)の新聞報道では、いずれも「ひどい母親」であることを強調され、被疑者女性の家事や育児の不十分さ、母親としての愛情不足、異性関係や交友関係などが大きく報じられた。こうした報道について、フェミニスト・メディア・スタディズ、とくに構築主義的な立場からどのように解釈できるか考察を行った結果、女性被害者や女性被疑者に対するこうした表現が、「ジェンダー」あるいは「女性」概念の産出に関与していると結論付けた(四方由美、前掲)。

これらの結論について、本稿では、計量テキスト分析の手法で異なる視角からアプローチを行いたい。近年、性犯罪の厳罰化の流れから強姦罪が強姦性交等罪へ変更改正されるなど(2017年7月)、法制度の見直しが行われている。また、「ケアの倫理」が注目されるなか、当事者に寄り添った報道の在り方の提案が行われている(浜井浩一2013、荻上チキ・浜井浩一2014)。こうした動向を踏まえて、犯罪報道を多面的に考察することを射程に入れておきたい。

## II 分析の概要

### 1 分析の目的

本稿の分析は、新聞の犯罪事件の報道において、女性に関わる事件がどのような語・語句によって伝えられているのか、また、それらの語・語句同士がどのように関連付けられているのか明らかにすることを目的とする。

### 2 分析の方法

本稿では、KHコーダーを用いた計量テキスト分析のなかでも、共起ネットワークを使った分

析を行う。共起ネットワークとは、出現パターンの似通った語、共起の程度が強い語を線で結んだネットワークとして描き、語と語が互いにどのように結びついているか読み取れるものである。樋口耕一（2014）は、語と語が線で結ばれているので、多次元尺度構成法よりも、解釈しやすい場合があるとしている。共起ネットワーク分析を行うと、事件報道において頻出する語句と何が関連付けて伝えられているか知ることができるといえる。強い共起関係ほど太い線で表示され、また、語の出現数に応じてそれぞれの語（node）を表す円のサイズが変化し、出現数の多い語ほど大きい円が描かれる。さらに、語と語の共起ネットワークでは、語（node）が色で示され、それぞれの語がネットワーク構造の中でどの程度中心的な役割を果たしているかを示し、水色、白、ピンクの順に中心性が高くなる。背景が白で丸い囲み枠が黒であれば他の語とグループを形成していない単独の語を意味する（樋口2014）。

なお、本分析においては、個人情報に配慮して基礎データを変換処理したうえで、KHコーダーによる作図を行っている。見出し、写真説明を含まない記事においてnodeを登場数4以上の単語<sup>4</sup>、リンクをJaccard係数0.1以上の共起関係とした。

### 3 分析の対象

分析対象とする事件は2016年11月から2017年1月までの3か月間に起こった事件の報道のなかで、女性が関わる事件（女性が被疑者とされる事件、女性が被害者とされる事件）を抽出し、多く報道された事件から合わせて6件（「大阪男児死体遺棄事件」「大阪乳児死亡事件」「千葉女児殺人未遂事件」「千葉大生集団強姦事件」「仏・留学生不明事件」「大阪准看護師強殺事件」）を選定した。本稿では、同期間に朝日新聞において報道された6事件の記事を分析対象とした。各事件の分析対象記事数は、「大阪男児死体遺棄事件」が13件、「大阪乳児死亡事件」が3件、「千葉女児殺人未遂事件」が2件、「千葉大生集団強姦事件」が14件、「仏・留学生不明事件」が13件、「大阪准看護師強殺事件」が5件となる。

本稿において、分析対象として選定した事件は次のとおりである。

#### (1) 女性が被疑者とされる事件：報道開始日、事件概要<sup>5</sup>

##### ①大阪男児死体遺棄事件：2016年11月24日

2016年11月22日、大阪市住吉区のコインパーキングに駐車してあった車のトランクのクーラーボックスから、無職、被疑者A（24）の長男・被害者Aちゃん（1）の遺体が見つかった事件。大阪府警は、23日に被疑者Aと内縁の夫である被疑者B（22）を死体遺棄の容疑で逮捕した。その後、両容疑者は、2017年2月13日に保護者責任遺棄致死の疑いで再逮捕された。2017年3月6日には大阪地検が、両被告を保護責任者遺棄致死罪などで追起訴している。

**②大阪乳児死亡事件：2016年12月6日**

2016年4月6日、大阪市東淀川区に住む被疑者C(66)が、孫の被害者Bちゃん(当時生後2か月と22日)に急性硬膜下血腫などの障害を負わせ、約3か月後入院先の病院で死亡させた事件。被害者Bちゃん宅は被疑者C宅から南西約1.5キロにあり、被疑者Cはよく訪れていた。事件当日も両親が外出し、被疑者Cが1人で、被害者Bちゃんと姉(2)の面倒をみていた。外出から約2時間後に帰宅した母親がぐったりしている被害者Bちゃんに気づき、病院に搬送。Bちゃんは脳死状態となり、7月23日に死亡した。被害者Bちゃんの死因は、頭を激しく揺さぶられたこととみられるが、被疑者Cは容疑を否認。大阪府警は、12月6日に被疑者Cを傷害致死容疑で逮捕、その後、大阪地検は12月27日に被疑者Cを傷害致死罪で起訴した。

**③千葉女児殺人未遂事件：2016年12月14日**

2016年12月11日の午前9時頃、千葉県流山市に住む会社員の母親(35)が、牛乳アレルギーのある長女(5)に牛乳を飲ませ「アナフィラキシーショック」を起こさせ殺害しようとして、殺人未遂容疑で千葉県警流山署に逮捕された事件。母親は苦しそうな長女を見て自ら119番通報し、長女は搬送され、呼吸困難や血圧低下、頻脈などの症状で入院したが、命に別条はなかった。その後、母親は13日に千葉地検松戸支部に送検され、地検は母親の責任能力を調べるために松戸簡裁に鑑定留置を請求し認められた。母親には、精神鑑定が行われ、刑事責任能力の有無が問われた。

**(2) 女性が被害者とされる事件：報道開始日、事件概要**

**①千葉大生集団強姦事件：2016年11月22日**

2016年11月21日に千葉県警は、女性を乱暴したとして千葉大医学部5年生の被疑者E(23)、被疑者F(23)、被疑者G(23)を集団強姦致傷容疑で逮捕した(被疑者の学部氏名などは逮捕時には公表されず、12月5日に公表された)。12月5日には、学生らと一緒にいた医師の被疑者D(30)が千葉県警に準強制わいせつ容疑で逮捕され、2017年2月2日には、同じ女性への準強制わいせつ容疑で千葉市中央区の医師の男性(29)が書類送検された。千葉地検は、12月12日に被疑者Eと被疑者Fを集団強姦罪、被疑者Gを準強姦罪、12月22日に被疑者Dを準強制わいせつ罪で千葉地裁に起訴した。準強制わいせつ罪容疑で追送検されていた被疑者E、被疑者F両被告については不起訴(起訴猶予)、千葉市中央区の医師の男性は2月21日に不起訴処分となった。

**②仏・留学生不明事件：2016年12月24日**

2016年12月23日に筑波大学からフランス東部ブザンソンに留学している被害者Cさん(21)が、行方不明になっていることから発覚した事件である。元交際相手とされるチリ人の被疑者H

(26) は、事件後チリに帰国したため、国際刑事警察機構 (ICPO) を通じて国際手配された。2017年4月14日現在、仏検察は被疑者 H を殺人容疑で国際手配し、チリ側に身柄引き渡しなどを要請しているが、チリ側は証拠不十分として応じていない (『読売新聞』、2017年4月14日、東京夕刊)。

### ③大阪准看護師強殺事件：2017年1月25日

2014年3月から行方不明となっていた大阪市西成区の准看護師、被害者 D さん (当時 29 歳) の遺体が、同年5月、東京都八王子市内のトランクルームから発見された事件。日系ブラジル人の被疑者 I (32) は被害者 D さんになりすましてパスポートを取得、遺体発見前の2014年5月3日に友人が住む中国へ渡航したとみられる。3週間後、上海の日本総領事館に出頭し、不法入国の疑いで中国当局に拘束された。事件は2014年5月の発覚から2年8カ月で急展開を迎えた。

2017年1月25日、中国に拘束された被疑者 I = 強盗殺人などの容疑で逮捕状 = が大阪府警に引き渡され、大阪府警は同年1月25日に被疑者 I を詐欺容疑などで逮捕、2月15日には大阪地検が詐欺と有印私文書偽造・同行使の罪で起訴した。また、3月3日には大阪府警が被告を強盗殺人容疑で再逮捕、10日に被害者 D さん名義のクレジットカードを不正使用したとする詐欺容疑などで追送検した。3月21日には大阪地検が詐欺罪で追起訴、3月24日に強盗殺人罪で追起訴した。

## III 犯罪報道の共起ネットワーク分析

### 1 女性被疑者に関する分析

#### (1) 大阪男児死体遺棄事件

表1は記事の抽出語リスト (頻出語) を示している。記事中に出現している単語 (抽出語) から、記事全体の傾向を確認することができる。20回以上出現する抽出語は、「被害者 A」「容疑者」「被疑者 A」「大阪」「遺体」「車」「府警」「東住吉」「被疑者 B」「遺棄」「児」「逮捕」「4月」「捜査」となり、「被害者 A」「被疑者 A」「被疑者 B」は、記事中では実名が掲載される。出現回数が多い抽出語に注目すると、被害者名、被疑者名、事件発生地域を示す語が特に多いことがわかる (表1参照)。

犯罪報道の共起ネットワーク分析(1) (四方由美)

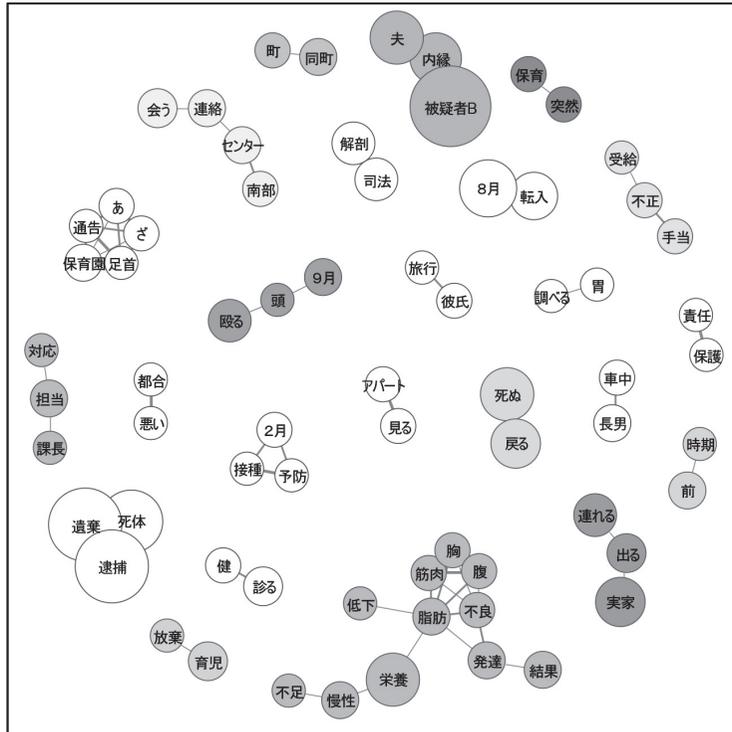
表1 「大阪長男死体遺棄事件」記事の抽出語リスト

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
被害者A	82	可能	13	発見	8	男児	5	滞在	4
容疑	71	死ぬ	13	離れる	8	長男	5	町	4
被疑者A	64	受ける	13	連れる	8	伝える	5	聴く	4
大阪	54	住吉	13	応答	7	同町	5	電話	4
遺体	41	説明	13	近く	7	熱中	5	当時	4
車	38	夫	13	午後	7	発達	5	同区	4
府警	36	関係	12	今月	7	保育園	5	突然	4
東住吉	27	内縁	12	子ども	7	慢性	5	南部	4
被疑者B	27	隠す	11	自宅	7	連絡	5	認める	4
遺棄	23	実家	11	取材	7	2月	4	発表	4
児	23	相談	11	預かる	7	アパート	4	判断	4
逮捕	23	放置	11	育児	6	家庭	4	彼氏	4
4月	22	戻る	11	会う	6	会える	4	不正	4
捜査	22	和歌山	11	確認	6	胸	4	不明	4
訪問	19	起訴	10	疑う	6	筋肉	4	不良	4
死体	18	今年	10	虐待	6	区内	4	腹	4
昨年	17	転入	10	出る	6	経緯	4	保育	4
死亡	17	11月	9	職員	6	健	4	矛盾	4
見つかる	16	行く	9	診る	6	見る	4	問題	4
母親	16	車内	9	入れる	6	現行	4	10月	3
8月	15	同市	9	母	6	最後	4	悪い	3
クーラーボックス	15	被告	9	9月	5	止める	4	胃	3
ホテル	15	話す	9	センター	5	車中	4	家族	3
姉	15	殴る	8	結果	5	手当	4	課長	3
長女	15	解剖	8	言う	5	受診	4	確かめる	3
トランク	14	疑い	8	脂肪	5	出頭	4	警察	3
供述	14	残す	8	児童	5	女性	4	午前	3
事件	14	司法	8	住む	5	詳しい	4	思う	3
3月	13	状態	8	前	5	食事	4	指捕	3
栄養	13	駐車	8	担当	5	親類	4	死因	3

次に、共起ネットワークを用いて、事件報道の全体的傾向について検討した。図1の共起ネットワークをみると、語と語の結びつきはあるものの、単語群が複雑に絡み合うネットワーク図というよりは、むしろ単語群が独立して単純な構造になっている。このことは、事件の内容は、読者に理解されやすい単純な構造で報道されていることを示唆している。

キーとなる語と結びつく語を確認すると、特に多い抽出語であった「被疑者B」は「内縁」「夫」と、「逮捕」「遺体」は「死体」とつながる。そのほか、出現回数の多い抽出語ではないが、「殴る」「栄養」「実家」「死ぬ」「センター」「担当」「町」がキーとなり、それぞれの語とつながる。そのうち特に「栄養」は、多数の語と結びついており、「栄養」が慢性的に不足していたことについて多様な語を用いて表していることがわかる(図1参照)。

図1 「大阪長男死体遺棄事件」共起ネットワーク（語と語）



(2)大阪乳児死亡事件

「大阪乳児死亡事件」の抽出語リストをみると、「容疑」「被害者 B」「被害者 C」「府警」「姉」「女兒」「大阪」の出現回数が多く、記事において事件の当該者が多く登場することがわかる（表2参照）。

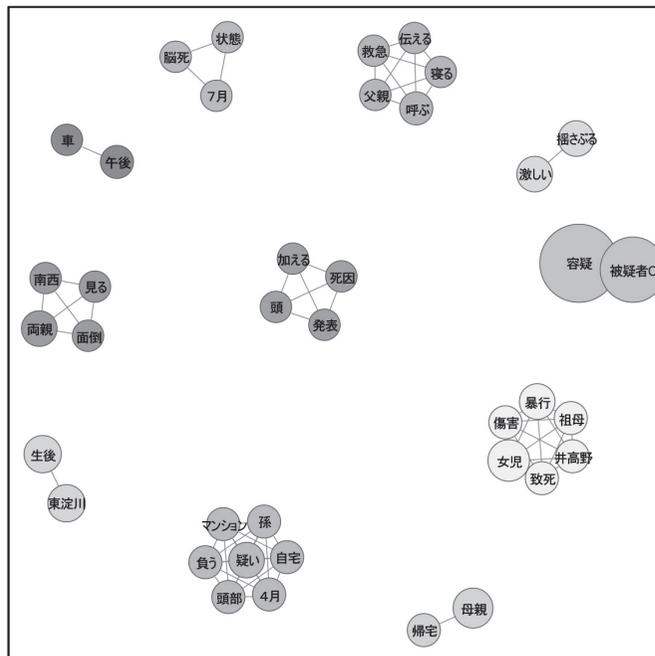
共起ネットワークでは、「父親」「伝える」「救急」「寝る」「呼ぶ」「女兒」「祖母」「傷害」「致死」「暴行」「井高野」「孫」「疑い」「マンション」「自宅」「負う」「頭部」「4月」とつながるが、「容疑」「被疑者 C」を除いては大きな円は描かれず、キーとなる語を基点とするネットワーク、複雑な結びつき、語間の強い共起関係はみられない（図2参照）。

犯罪報道の共起ネットワーク分析(1) (四方由美)

表2 「大阪乳児死亡事件」記事の抽出語リスト

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
容疑	24	気づく	3	任意	2	強い	1	相手	1
被害者B	19	呼ぶ	3	脳	2	近所	1	相談	1
被害者C	18	午後	3	脳死	2	駆けつける	1	息	1
府警	8	自宅	3	発表	2	午前	1	損傷	1
姉	7	傷害	3	搬送	2	広範囲	1	調べ	1
女児	7	祖母	3	父親	2	荒い	1	調べる	1
大阪	7	孫	3	面倒	2	高い	1	通じる	1
捜査	6	致死	3	連れる	2	司法	1	通報	1
宅	6	当日	3	かわいそう	1	姿	1	到着	1
母親	6	頭部	3	その後	1	子ども	1	同行	1
死ぬ	5	否認	3	ジャケット	1	市営	1	伯母	1
事件	5	病院	3	ダウン	1	児童	1	剥離	1
生後	5	負う	3	ピンク	1	車両	1	判断	1
逮捕	5	訪れる	3	フード	1	取材	1	必要	1
東淀川	5	7月	2	マスク	1	受ける	1	複数	1
話す	5	SBS	2	依頼	1	住宅	1	物騒	1
疑い	4	加える	2	意図	1	出血	1	別室	1
激しい	4	関係	2	異変	1	女性	1	変わる	1
死亡	4	救急	2	隠す	1	症候群	1	報道陣	1
同区	4	見る	2	運ぶ	1	症状	1	無言	1
暴行	4	死因	2	下りる	1	衝撃	1	網膜	1
揺さぶる	4	車	2	可能	1	乗り込む	1	問いかける	1
両親	4	状態	2	解剖	1	深い	1	測ける	1
4月	3	寝る	2	階段	1	世話	1	容体	1
マンション	3	伝える	2	確認	1	青ざめる	1	揺さぶり	1
井高野	3	当時	2	顔色	1	専門医	1		
外出	3	頭	2	急変	1	前	1		
帰宅	3	南西	2	求める	1	前後	1		

図2 「大阪乳児死亡事件」共起ネットワーク(語と語)



(3)千葉女兒殺人未遂事件

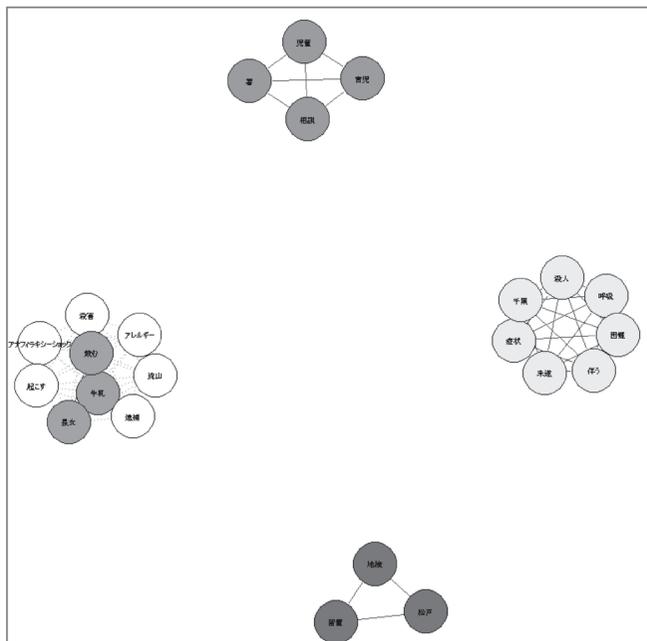
「千葉女兒殺人未遂事件」では、「牛乳」「長女」「アレルギー」「母親」「飲む」「相談」の出現回数が多く、前掲の2つの事件では事件当該者が多く出現したのに対し、異なる傾向にある（表3参照）。

共起ネットワークをみると、4つの語の結びつきのみという単純な構造になっていることがわかる。そのうち、主な結びつきを具体的にみると、「長女」「牛乳」「飲む」を中心に「アレルギー」「流山」「逮捕」「殺害」「アナフィラキシーショック」「起こす」の語が、「相談」を中心に「育児」「児童」「署」の語が結びついている（図3参照）。

表3 「千葉女兒殺人未遂事件」記事の抽出語リスト

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
牛乳	6	疑い	2	会社	1	支部	1	入院	1
長女	6	県	2	簡裁	1	自ら	1	認める	1
アレルギー	5	殺人	2	鑑定	1	自宅	1	悩む	1
母親	5	児童	2	期間	1	取材	1	能力	1
飲む	4	署	2	供述	1	少量	1	柏	1
相談	4	松戸	2	強める	1	請求	1	発表	1
起こす	3	千葉	2	苦しい	1	責任	1	頻る	1
呼吸	3	地検	2	刑事	1	送検	1	普段	1
困難	3	伴う	2	血圧	1	耐性	1	別条	1
殺害	3	未遂	2	県警	1	調べ	1	放棄	1
症状	3	容疑	2	見る	1	調べる	1	脈	1
逮捕	3	留置	2	午前	1	血圧	1	命	1
流山	3	6月	1	合う	1	通報	1	有無	1
育児	2	7月	1	子ども	1	低下	1	預ける	1

図3 「千葉女兒殺人未遂事件」共起ネットワーク（語と語）



## 2 女性被害者に関する分析

### (1) 千葉大生集団強姦事件

抽出語リストから、「学生」「容疑」「女性」「医学部」「千葉」「逮捕」「事件」「集団」「性的」「暴行」「加える」「同大」が20回以上の出現回数となる語で、被疑者や被害者の属性を中心に事件の内容がおおよそ理解できるものであることがわかる。被疑者は「学生」「医学部」「千葉」の語で、被害者は「女性」の語で表現される。出現回数が10回以上20回未満になると、被疑者名や容疑内容が出現する(表4参照)。

表4 「千葉大生集団強姦事件」記事の抽出語リスト

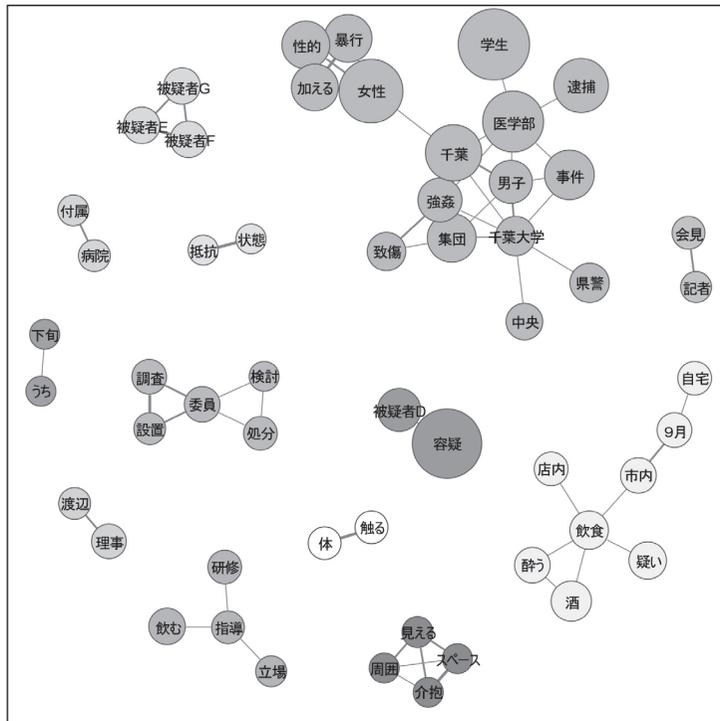
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
学生	49	市内	10	捜査	5	中谷	3	参加	2
容疑	46	酔う	10	地検	5	懲戒	3	志す	2
女性	40	発表	10	付属	5	泥酔	3	実習	2
医学部	37	被告	10	立場	5	店	3	出す	2
千葉	32	話す	10	うち	4	同じ	3	述べる	2
逮捕	30	9月	9	スペース	4	判断	3	傷つける	2
事件	25	受ける	9	下旬	4	非常	3	昭	2
集団	24	調査	9	介抱	4	筆頭	3	詳しい	2
性的	23	理事	9	検討	4	負う	3	情報	2
暴行	23	研修	8	行為	4	報道	3	心	2
加える	22	自宅	8	周囲	4	連れ込む	3	深刻	2
同大	20	処分	8	状態	4	おわび	2	晴	2
強姦	19	店内	8	説明	4	ほか	2	西	2
男子	18	会見	7	調べる	4	亥鼻	2	先月	2
被疑者D	18	強制	7	抵抗	4	一部	2	態度	2
医師	17	指導	7	同区	4	稲毛	2	大学院	2
関係	16	触る	7	別	4	学内	2	大変	2
酒	15	人	7	連れる	4	感じる	2	担当	2
県警	14	千葉大	7	11月	3	看護	2	知る	2
千葉大学	14	体	7	キャンパス	3	関わる	2	通う	2
飲食	13	取材	6	一緒	3	許す	2	通知	2
致傷	13	設置	6	学部	3	共同	2	同市	2
疑い	12	男性	6	企画	3	教職員	2	内容	2
飲む	11	渡辺	6	午後	3	経緯	2	認める	2
中央	11	被害	6	広報	3	軽傷	2	把握	2
被疑者E	11	病院	6	謝罪	3	結果	2	複数	2
被疑者F	11	記者	5	受け止める	3	研究	2	慣る	2
被疑者G	11	見える	5	書類	3	現場	2	未明	2
委員	10	午前	5	誠	3	今月	2	無理やり	2
起訴	10	事実	5	送検	3	今年	2	明らか	2

次にこれらの抽出語について共起ネットワークで語と語の結びつきを検討したところ、13の結びつきが確認できた。被害者である「女性」は「暴行」「性的」「加える」と強い共起関係にあり、被害者という語や、女性の属性やプライバシーに関する語は登場しない。最も多くの語と共起しているのは、「医学部」「学生」「千葉」「強姦」「致傷」「集団」「逮捕」「事件」「男子」「千葉大学」「県警」「中央」であり、「千葉」と「男子」、「強姦」と「致傷」、「男子」と「千葉大学」が強い共起関係にある。また、そのうち「千葉」と「女性」が共起する。そのほか、男子学生3名の「被疑者E」「被疑者F」「被疑者G」は共起するが、研修医の「被疑者D」は被疑者E・F・Gとは共起関係になく「容疑

と共起しており、「容疑」は被疑者 D に強く表れる。

被害者、被疑者に関する語の結びつき以外では、当該大学での調査委員の設置に関連する「委員」「調査」「設置」「検討」「処分」、事件に関連して「飲食」「酔う」「酒」「疑い」「店内」「市内」「9月」「自宅」の共起および、「見える」「周囲」「スペース」「介抱」の共起、また研修医の立場に関連する「指導」「研修」「立場」「飲む」が共起関係としてあがる（図 4 参照）。

図4 「千葉大生集団強姦事件」共起ネットワーク（語と語）



## (2) 仏・留学生不明事件

「仏・留学生不明事件」は、フランスで発生した事件のため、フランスの捜査当局の捜査状況を報道する記事が多い。抽出語リストから出現回数が 20 回以上のものを抽出すると、「被害者 C」「仏」「容疑」「チリ」「男」「留学」「フランス」「行方」「捜査」となる。「被害者 C」の出現回数が最も多いということは、実名が最も多い語として掲載されていることを意味する（表 5 参照）。

抽出語について共起ネットワークで語と語の結びつきを検討したところ、「被害者 C」の円が大きく、「留学」「行方」「フランス」「ブザンソン」「東部」「筑波大」「事件」「不明」が共起する。そのなかでも、「ブザンソン」「東部」「筑波大」「事件」「行方」「不明」が強い共起関係にある。そのほか、「容疑」と「チリ」が共起関係にあるが、これは、容疑者の実名が公表されたの

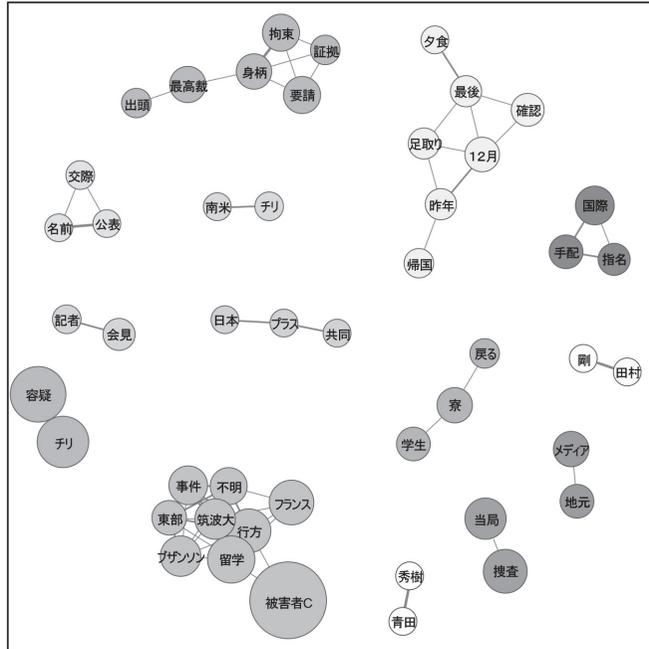
犯罪報道の共起ネットワーク分析(1) (四方由美)

は2017年1月7日であり、それまで「チリ人の男」として掲載されることが多かったことを表している(図5参照)。

表5 「仏・留学生不明事件」記事の抽出語リスト

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
被害者C	55	会見	8	時間	4	玉川	3	9月	2
仏	33	警察	8	示す	4	交渉	3	AFP	2
容疑	33	指名	8	秀樹	4	行動	3	インター	2
チリ	29	情報	8	出る	4	郊外	3	カメラ	2
男	24	分かる	8	進める	4	今月	3	コンテ	2
留学	24	明らか	8	制度	4	殺害	3	ジュネーブ	2
フランス	22	パリ	7	青田	4	殺人	3	スイス	2
行方	21	最後	7	提供	4	支援	3	スペイン	2
捜査	21	昨年	7	田村	4	出す	3	ダンス	2
当局	18	足取り	7	南米	4	書類	3	ボール	2
筑波大	17	被疑者H	7	日本	4	証言	3	マドリッド	2
検察	15	夜	7	部屋	4	続ける	3	一致	2
国際	15	帰国	6	無事	4	退ける	3	何とか	2
事件	15	協力	6	名前	4	大学	3	会合	2
拘束	14	語る	6	夕食	4	担当	3	改めて	2
不明	14	出頭	6	話す	4	追う	3	機構	2
要請	14	証拠	6	EU	3	内容	3	祈る	2
最高裁	13	戻る	6	サンティアゴ	3	日	3	疑い	2
メディア	12	その後	5	一緒	3	派遣	3	吉田	2
身柄	12	チリ	5	欧州	3	発表	3	拠点	2
寮	12	レストラン	5	開く	3	判断	3	供述	2
12月	11	可能	5	外国	3	犯罪	3	教員	2
東部	11	記者	5	外相	3	否定	3	教室	2
学生	10	求める	5	学長	3	不十分	3	緊張	2
手配	10	交際	5	巻き込む	3	付近	3	近郊	2
地元	10	留学生	5	関係	3	複数	3	具体	2
伝える	10	プラス	4	関与	3	方針	3	軍事	2
確認	9	共同	4	岸田	3	命令	3	刑事	2
説明	9	公表	4	協定	3	目的	3	携帯	2
引き渡し	8	剛	4	叫び声	3	連合	3	経験	2

図5 「仏・留学生不明事件」共起ネットワーク（語と語）



### (3) 大阪准看護師強殺事件

「大阪准看護師強殺事件」は2014年5月に発覚した事件で、中国に拘束された日系ブラジル人被疑者が中国当局から引き渡しを受け、2017年1月25日に逮捕されたことから、記事には事件の概要に加えて、逮捕までの経緯が多く掲載されている。

抽出語リストから出現回数が20回以上のものを抽出すると、「容疑」「被害者D」「中国」となり、被害者名が多く掲載される。次に、出現回数が10回以上20回未満になると、「大阪」「逮捕」「日本」「被疑者I」「引き渡し」「事件」「捜査」「府警」「女」「西成」「5月」「クレジットカード」「ブラジル」「強盗」「詐欺」「殺人」の語が掲載され、被疑者名のほか、事件の概要を表す語が多くなる（表6参照）。

犯罪報道の共起ネットワーク分析(1) (四方由美)

表6 「大阪准看護師強殺事件」記事の抽出語リスト

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
容疑	47	准看護師	6	不明	4	到着	3	言える	2
被害者D	38	上海	6	北村	4	得る	3	限る	2
中国	28	東京	6	明らか	4	日	3	午後	2
大阪	19	有印	6	12月	3	日系	3	合意	2
逮捕	18	話す	6	その後	3	入国	3	国際	2
日本	17	見つかる	5	トランク	3	不法	3	此花	2
被疑者I	16	作る	5	ベット	3	夢	3	今	2
引き渡し	13	女性	5	ホテル	3	預ける	3	再び	2
事件	12	小中学校	5	マンション	3	絡む	3	仕事	2
捜査	12	当局	5	ルーム	3	旅券	3	子	2
府警	12	当時	5	遺棄	3	11月	2	指摘	2
女	11	認める	5	関西	3	アルバイト	2	施設	2
西成	11	八王子	5	交渉	3	フェイスブック	2	死亡	2
5月	10	パスポート	4	今月	3	愛想	2	至る	2
クレジットカード	10	違反	4	罪	3	以来	2	自宅	2
ブラジル	10	外務省	4	殺害	3	異例	2	実家	2
強盗	10	教授	4	使う	3	横浜	2	実現	2
詐欺	10	空港	4	使用	3	家族	2	就職	2
殺人	10	航空機	4	支払う	3	介護	2	出る	2
引き渡す	9	行方	4	死体	3	会う	2	出入国	2
拘束	9	取る	4	飼い犬	3	管理	2	巡る	2
不正	9	受ける	4	時代	3	関係	2	処罰	2
遺体	8	条約	4	小学校	3	帰る	2	書き込む	2
疑い	8	真相	4	卒業	3	起きる	2	傷	2
同級生	8	生活	4	奪う	3	起訴	2	場合	2
名義	7	前	4	男性	3	供述	2	他	2
3月	6	締める	4	中間	3	共通	2	泰三	2
偽造	6	大学院	4	長い	3	区内	2	代金	2
行使	6	都内	4	渡る	3	結ぶ	2	大きい	2
私文書	6	判断	4	投稿	3	原則	2	男	2

次に、共起ネットワークで語と語の結びつきを検討したところ、「中国」の円が最も大きく、「引き渡し」と共起することから、容疑者の中国の引き渡しが記事の中で大きく取り上げられていることになる。そのほか、容疑者の引き渡しに関連して、「5月」「拘束」「当局」「受ける」「航空機」「空港」がネットワークを描く。

「被疑者I」と共起するのが、「不正」「名義」「作る」「都内」「クレジットカード」「疑い」で、なかでも「不正」「名義」「都内」が強く共起している。他方、「事件」「ブラジル」「准看護師」「東京」「八王子」「遺体」「見つかる」「当時」「西成」の語が結びつき、そのうち、「当時」「見つかる」「遺体」「准看護師」の共起関係が強い。さらにそれらの語の結びつきの中で、「遺体」と「クレジットカード」は共起することで、「被疑者I」と被害者である「准看護師」が結びつけられる(図6参照)。



今回分析対象とした朝日新聞においては実名報道の有無は別として、客観的知見に基づく報道が行われているといえる。ただし、このことが新聞全般の特徴と断定するには、他紙も合わせての分析が必要である。今後の課題としたい。加えて、週刊誌やテレビ報道など、他のメディアとの比較も行っていきたい。

また、犯罪報道の影響、およびその問題や在り方について論じるためには、報道内容の研究だけでなく、報道内容を読者・視聴者がどのように受容しているか(受け手研究)、記者や制作者を取り巻く状況はどのようなものか(送り手研究)など、各方面からの総合的なアプローチを行うことが望ましい。これらについても今後の課題とするとともに、本稿の分析をテキスト分析の一つとして位置づけ、研究を発展させていきたいと考える。

### 引用・参考文献

- 大谷奈緒子・四方由美・川島安博・小川祐喜子・川上孝之(2015)「時間・空間フレームにおける犯罪報道研究」『東洋大学社会学部紀要』第53-1号: P.31-46
- 大谷奈緒子・四方由美・川島安博・小川祐喜子(2016)「犯罪報道のフレーム分析」『東洋大学社会学部紀要』第53-2号: P.33-46
- 大谷奈緒子・四方由美・川島安博・小川祐喜子(2017)「犯罪報道のフレーム分析(2)」『東洋大学社会学部紀要』第54-2号: P.51-63
- 荻上チキ・浜井浩一(2014)『新・犯罪論 「犯罪減少社会」でこれからすべきこと』現代人文社
- 小玉美意子・中正樹・黄允一(1999)「雑誌における女性被害者報道の分析 事例研究:『東京電力女性社員殺人事件』を『学習院大男子学生殺人事件』と比較する」(『ソシオロジスト』No1:P1-38)
- 斉藤慎一(2012)「ニュース報道とジェンダー研究」(国広陽子・東京女子大学女性学研究所編『メディアとジェンダー』勁草書房P.31-63)
- 四方由美(2014)『犯罪報道におけるジェンダー問題に関する研究 ジェンダーとメディアの視点から』学文社
- 島崎哲彦・大谷奈緒子・小川祐喜子・伊達康博・柳瀬公・福田朋実・赤尾光史・四方由美・川上孝之(2012)「犯罪報道における被疑者および被害者の実名とプライバシーの取り扱い—明治期から現代までの変遷と問題点に関する実証的研究—」『東洋大学21世紀ヒューマン・インタラクティブ・リサーチ・センター研究年報』第9号:P.3-15
- 日本弁護士連合会編(1976)『人権と報道』日本評論社
- 日本新聞協会編集委員会(2006)『実名と報道』日本新聞協会
- 日本新聞協会(2008)「裁判員制度開始にあたっての取材・報道指針」(2008年1月16日[http://www.pressnet.or.jp/statement/report/080116\\_4.html](http://www.pressnet.or.jp/statement/report/080116_4.html) 2017年11月7日閲覧)

- 浜井浩一（2013）『罪を犯した人を排除しないイタリアの挑戦 隔離から地域での自立へ』現代人文社
- 樋口耕一（2014）『社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版
- 平川宗信（2010）『報道被害とメディア改革 人権と報道の自由の視点から』解放出版社
- 牧野智和（2012）「犯罪報道研究の現状と課題」早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊20号－1:P.13-24
- 矢島正見（1991）「犯罪報道の社会的分析」（『犯罪と非行』No.90:P38-55）

---

<sup>1</sup> 本研究は、2016年～2019年度科学研究費補助金（基盤研究（C））（研究代表者 四方由美）で実施した「犯罪報道におけるジェンダー問題に関する実証的研究」の研究成果の一部を発表するものである。本研究の構成員は、共著者の他に、国広陽子（武蔵大学）。

\* 大谷奈緒子（東洋大学） \*\* 北出真紀恵（東海学園大学） \*\*\*小川祐喜子（東洋大学）

\*\*\*\*福田朋実（宮崎公立大学）

<sup>2</sup> 個人情報保護法の近年の改正は2017年5月。ほぼすべての企業に個人情報保護法上の義務が課されることとなった。

<sup>3</sup> 犯罪報道研究会の成果は、島崎哲彦ら（2012）、大谷奈緒子ら（2015、2016、2017）など。

<sup>4</sup> 千葉女児殺人未遂事件のみ、登場数2以上の単語。

<sup>5</sup> 事件概要は、事件当事者の個人情報に配慮して個人名を匿名に置き換えて記述している。置き換えに使用したアルファベットは、基礎データの変換と同じ。